

斜里町

田中 邦博

1. 斜里町の歴史

1.1 地名の由来

北海道の地名の多くは、もともとあったアイヌ語地名に由来している。

斜里町の地名の由来も例外ではなくアイヌ語のサルまたはシャルより転化したもので、いずれも「アシの生えているところ」という意味である。

1.2 歴史

1915 年二級町村制を実施。斜里・朱円・遠音別・止別・蒼環の 5 ヶ村を合併して斜里村と改称し各村を大字と改めた。吉田重静が初代村長となる。1919 年小清水村（現在小清水町）を分村。1939 年町制を施行し斜里町となる。1943 年上斜里村（現在清里町）を分村。

これが大まかな斜里町の歴史である。しかし斜里町にはもっと古い歴史もあった。現在の斜里に人が住み始めたのはおよそ 3 万年前。先土器時代と呼ばれ、石器の形式が大陸北部のものと共通点が多く、北ヨーロッパからシベリアを経て、北海道北東部にわたる北アジア文化圏の一端を形成していた。奈良朝から平安朝の頃、大陸方面からオホーツク海沿岸を南下してきた海洋民族がいたが、この民族の文化は従来の北海道には見られなかった系統のものでオホーツク文化と称せられている。宗谷に上陸した彼らはオホーツク海沿岸を東進し、北千島に至る過程で斜里町にも多くの遺跡を残している。アイヌ文化期の初期には、まだいかなる民族の支配も受けず、大陸との交易は宗谷、樺太を通して行われていた。

2. 地理・気候

図 1. 斜里町の位置

2.1 位置

網走支庁東部に位置し、東経 144 度 33 分～145 度 22 分、北緯 43 度 44 度 21 分にあり、面積は 737 平方キロメートルにおよぶ。女満別空港より国道 244 号線を経由して車で 60 分東へ向かったところに位置している。（女満別空港から東京羽田空港へは約 1



出典 斜里町 HP

時間 30 分。)東部は知床半島北部に位置し、知床国立公園の一角をなす。 北部はオホーツク海に面する。また南部は山岳で斜里岳などを有する。

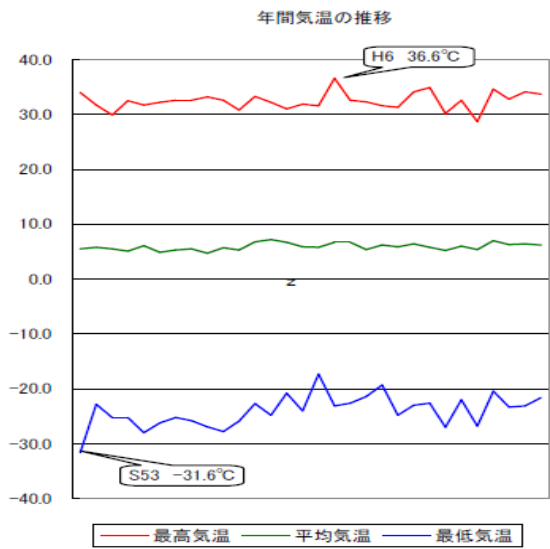
2.2 気候

斜里町は北海道の東、オホーツク海に面し、北に 100 キロを超える海岸線、東南に知床連山、南に清里町、西に小清水町を擁して、弓状三角形をなしており、知床半島を羅臼町と 2 分している。

気温は年平均 7 度以下。積雪量はさほど多くないが、融雪時期が遅く、6 月中旬頃までフェーン現象による南東の強風が吹きつける。

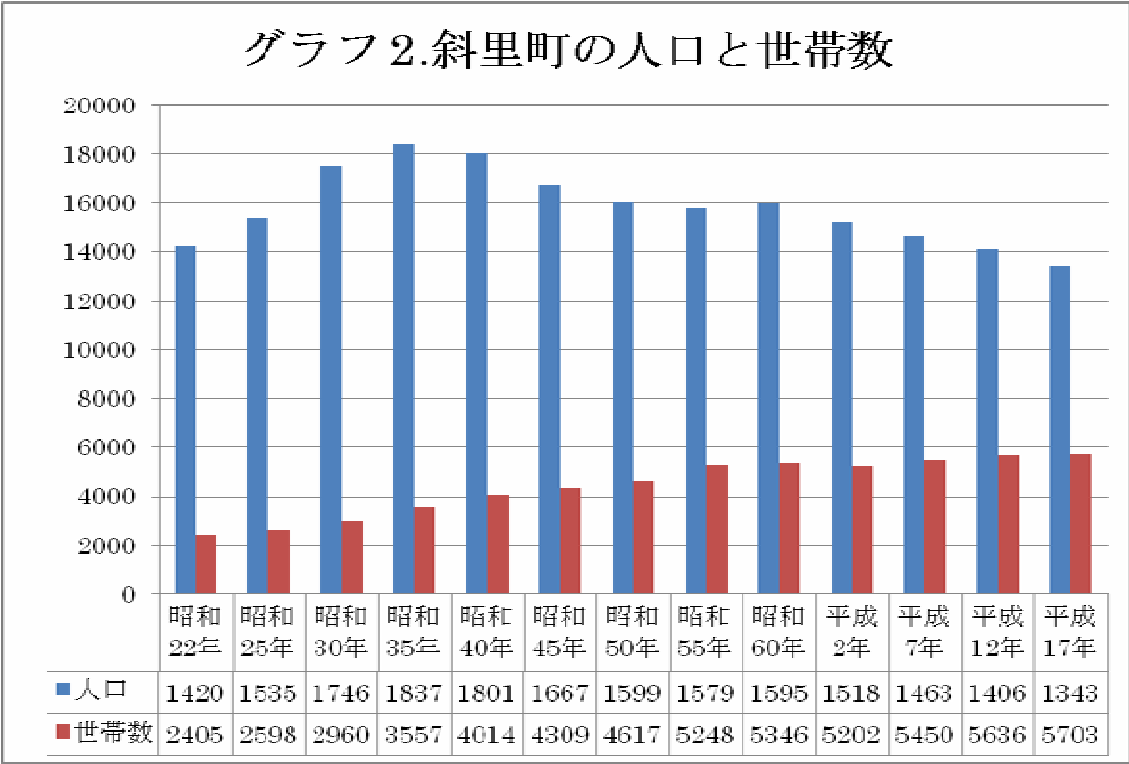
図からもわかるように最高気温・最低気温はその年によってまちまちで多少波があるが、平均気温は、さほど大きな変化は見られない。

グラフ 1.斜里町の年間気温の推移



出典 斜里町 HP

3.人口・世帯数の推移



※大正 9 年～昭和 15 年以降の各回国勢調査の人口を、平成 17 年 10 月 1 日現在の市町村境域に合わせて組み替え推計したものである。

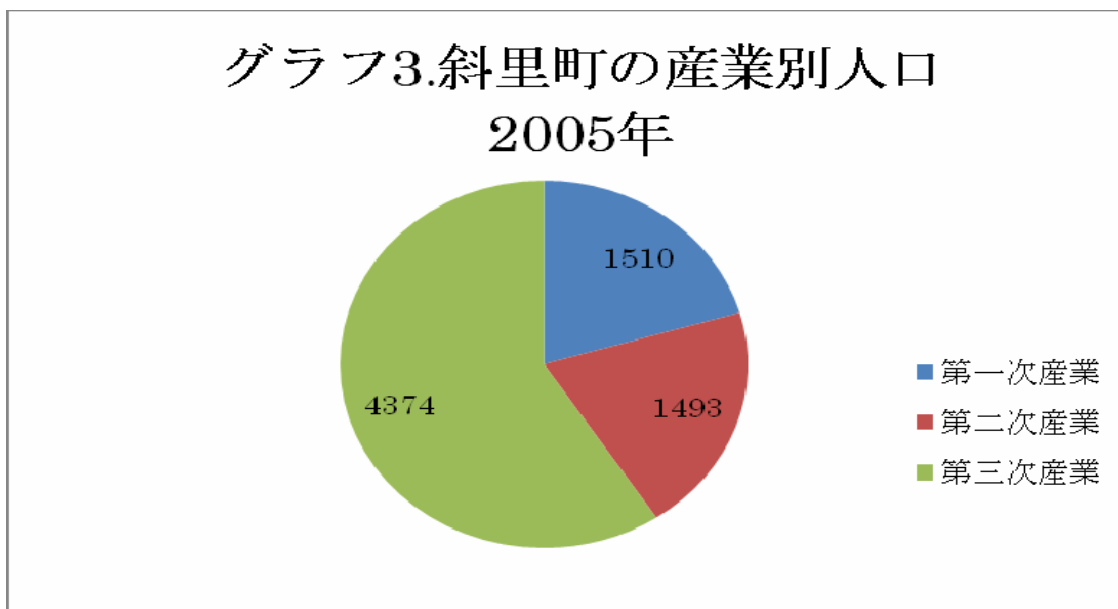
図から、国勢調査によると人口は昭和 45 年までは増加しているが、45 年をピークに減少傾向にあることが読み取れ、少子高齢化の影響があると考えることができる。だが世帯数は多少波があるものの増加傾向にあることを読み取れる。

4.産業

4.1 斜里町の産業

農業と漁業と観光業が基幹産業である。小麦、甜菜、馬鈴薯を主体とした畑作農業が行われ、日本の穀倉地帯との一つである。また漁業では水産資源に恵まれたオホーツク海を漁場とし、サケ・マスの水揚げが日本一となっている。また一次産業と一体となった食品加工業が盛んである。また年間約 150 万人の観光客が訪れる。観光の中心であるウトロ地区には大小の温泉宿があり、ここから車で 20 分ほどの知床五湖では、遊歩道が整備され世界自然遺産となった知床の自然を身近に観察できる。海の幸も観光の魅力である。

ここで、2005 年の斜里町の産業別人口を紹介する。



斜里町では農業や漁業が基幹産業であると述べたものの、第 1 次産業に従事する人数は年々減少しているというのが現状だ。対照的に第 3 次産業に従事する人が半分を超えている。これは斜里町で観光業が基幹産業のためであるのではないかと考えることができる。

4.2 斜里町の漁業

斜里町の海岸線はオホーツク海に面して 100 kmに及び、この沿岸に斜里市街・峰浜・日の出・ウトロと 4ヶ所に漁業集落がある。

斜里における漁業の歴史は古く、寛政 2 年（1790 年）の斜里場所開設にその歴史が始まる。また漁業の主は定置網漁業であり、その他に、たこ・ほたて・ほっき・うに・刺網・ほたて漁業などが営まれている。

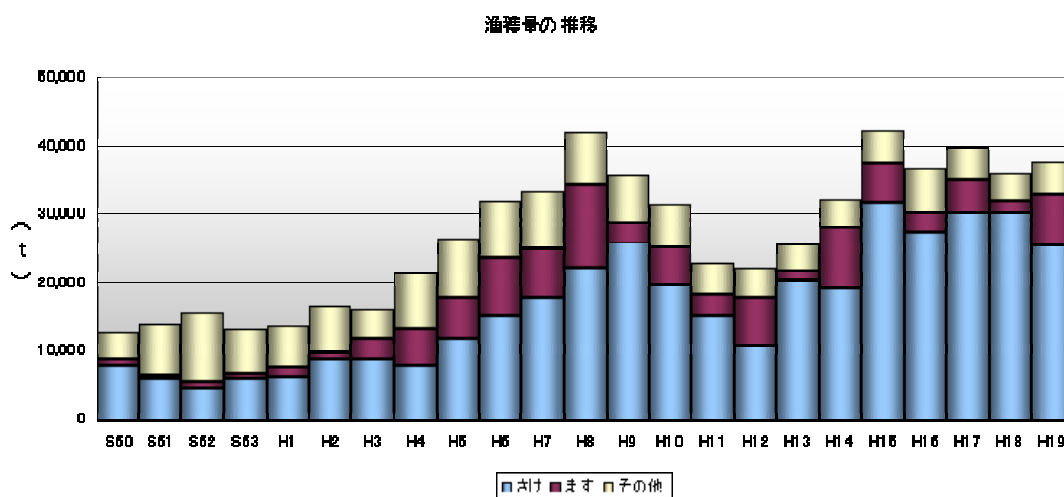
8 月から 10 月の盛漁期には水揚する漁船や漁獲物運搬車両などで港やその周辺は大変な賑わいを見せる。輸入の養殖魚介類が多く流通する中で、北海道のサケ・マス定置網漁業は数少ない自給可能資源として大変重要な位置を占めていて、斜里町のサケ・マスの漁獲量は国内の 1 割以上を占め、日本一の量となっているのである。しかし、サケ・マス以外にも、ほっけ・ほたて・えいなど漁獲は行なっているもののこれらは漁獲量全体の 2%程度でしかなく、漁業のほとんどをサケ・マスに依存しているのだ。

図 2. 漁獲風景



出典 斜里町HP

グラフ 4 漁獲量の推移



出典 斜里町 HP

漁業就業者数は 50 歳から 54 歳がもっとも多い。また女性が少なく 100 人に 2 人の割合だ。93 年から 98 年にかけて就業者数が減ったものの 03 年には 93 年並まで増加した。だが漁業世帯数は増加することなくそのまま減少しているというのが現実である。

4.3.1 斜里町の農業

斜里町の農業は、恵まれた土地資源を活用し、専業農家を主体に機械化体系の確立された土地利用型作物が作付けされている。斜里町は、北海道の東端部に位置し、寒冷で積雪期間が長いなど厳しい自然条件のもと、近代的な農業技術の導入や生産基盤の整備により、気象条件に影響されることの少ない安定した農業を育てる努力が続けられている。

農家戸数は、316戸、耕地面積 10,800ha に基幹作物の小麦、馬鈴薯、てん菜が 8,400ha 作付けされ、全体の 77%を占めている。また野菜類では、にんじん、たまねぎ、食用いも等が基幹作物の補完作物として栽培されている。そのなかでも特にたまねぎの収穫量が多く、次いで大根・はくさいと続いている。そして畜産は、農家戸数の約 10%を占め、酪農をはじめ肉用牛、豚、鶏等で農業粗生産額の約 11%を占めていて、この中では豚が最も多く生産されている。

総人口の減少に伴って総人口に占める農家人口割合も減少しているという現状もある。農業も漁業同様に 50 歳代が多く特に 55 歳から 59 歳にかけては女子のほうが多い。

図における農産物とは、麦類、豆類、馬鈴薯、てん菜、青果物、飼料作物を指す。

また畜産物とは、牛乳、肉牛、豚、馬、鶏卵、めん羊のことである。

図より農業生産額には波が見られる。近年特に平成 15 年をピークに減少傾向にある。しかし毎年畜産にはそれほど大きな変化が見られないので、農産物の出来、不出来が農業生産額の推移に関係があると考えられる。

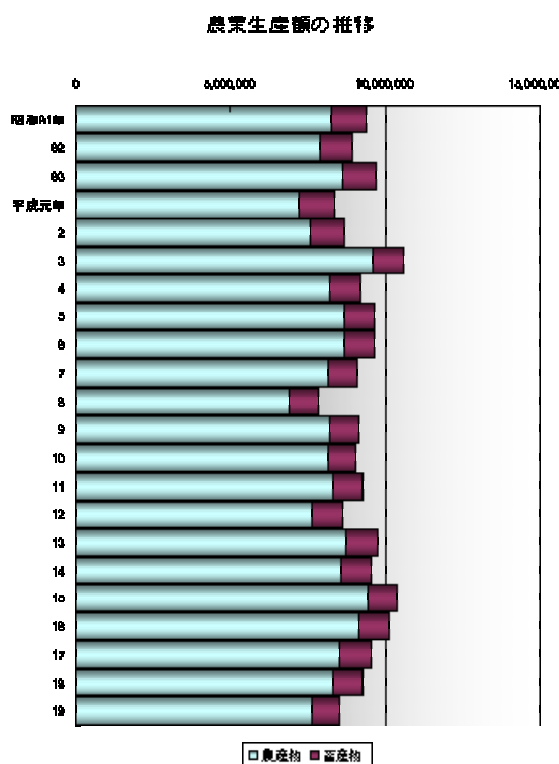
また、畜産物より農産物をメインに扱っている。ということもこのグラフより読み取れるだろう。

図 3.農村風景



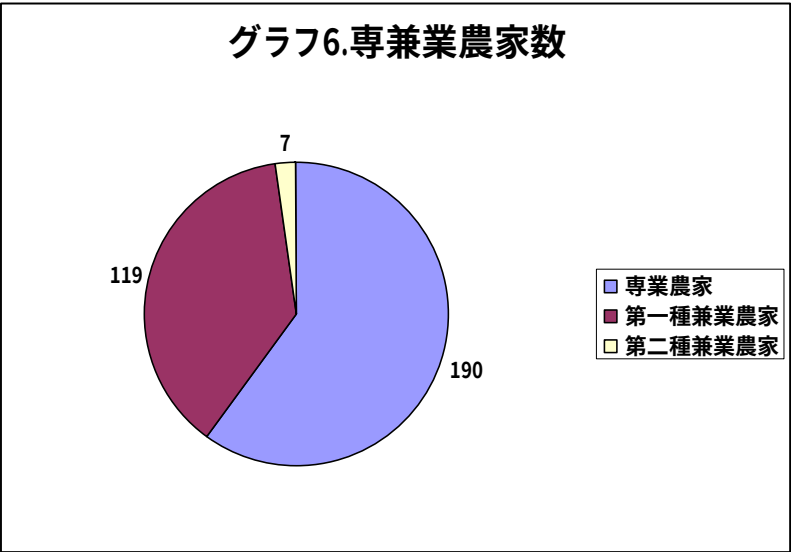
出典 斜里町 HP

グラフ 5.農業生産額の推移



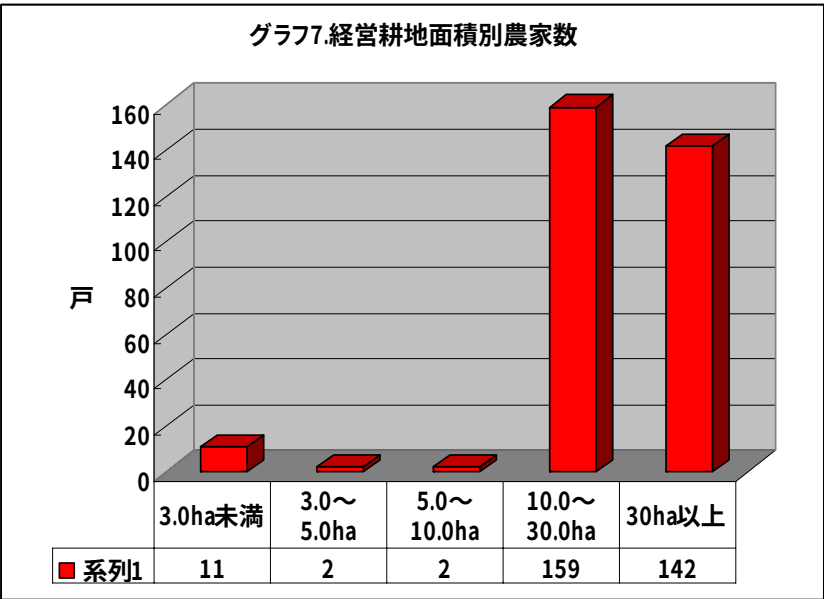
4.3.2 専兼業農家数

ここからは2つの観点からの農家数を紹介する。



この図からも読み取れるように斜里町の農業のほとんどが専業農家であり他からの収入に頼っていないことが分かる。グラフ 3 では第一次産業従事者が少ない現実と読み取ることができるが、このグラフを見る限り、まだまだ農業に力を入れている人も多いということも読み取ることができるであろう。

4.3.3 経営耕地面積別農家数



このグラフを見る限り多くの農家が広大な土地を持っていることがわかる。このグラフ

はまた、グラフ 6 を読み取るヒントになると思われる。それは広大な土地を持っているからこそ、たくさんの物を作ることができ、収入がたくさん得ることができるので他のことに手を出さずに済むという考えがあるのではないかと思ったからだ。

4.4 斜里町の商工業

斜里町の商業の中心は、JR 知床斜里駅前に広がる中心市街地商店街である。道の駅しやりを中核として、中心市街地活性化事業が行われ、多様化する消費者ニーズに応えるため「にぎわい」を創出する取り組みが活発に行われている。またウトロ地区でも再開発事業により漁港と隣接する道の駅うとろ・シリエトクや新たな商業ゾーンが形成されている。

工業は、食品加工業を中心として営まれ、基幹産業である一次産業と一体となって発展している。

図 4.斜里中心市街地

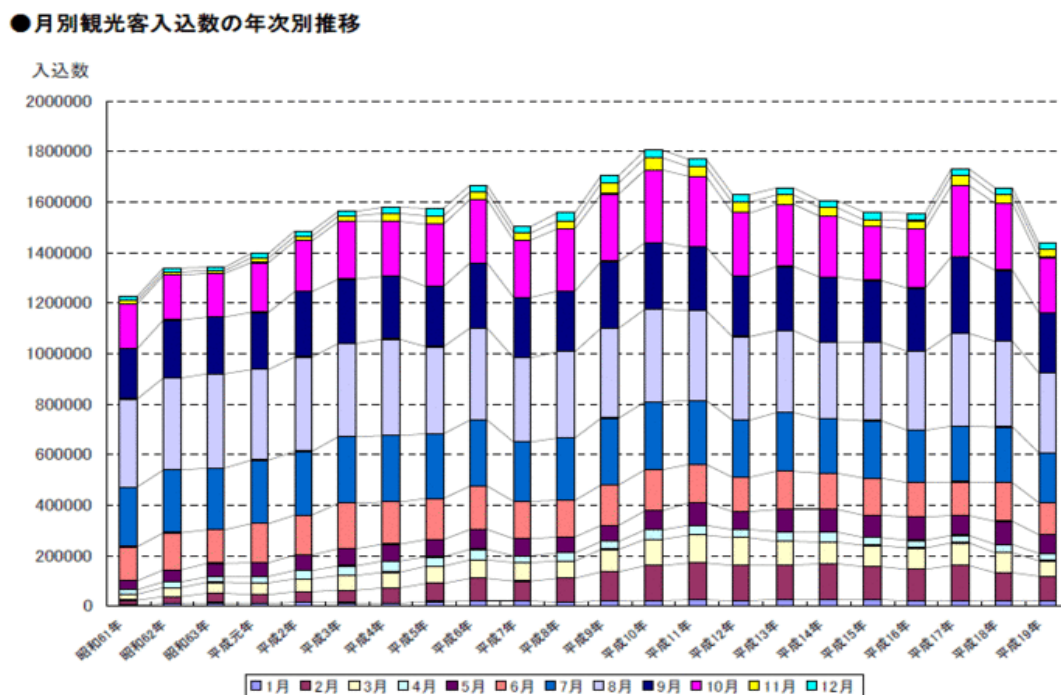


出典 斜里町 HP

5.観光

5.1 観光客入込数

グラフ 8.観光客入込数



出典 斜里町 HP

このグラフより、平成 16 年(2004 年)と 17 年(2005 年)の間に伸びがあるが、これは、知床が南アフリカ共和国 ダーバンで行われた第 29 回ユネスコ世界遺産委員会において世界遺産に 2005 年 7 月 17 日に正式に登録されたためであると考えられる。しかし 2005 年をピークに観光客は減少している。

また北海道の観光は夏場以降に観光客が著しく減少する傾向があると聞いた。しかし斜里町は 10 月過ぎまで観光客が多く訪問している。これは斜里町の特色といえる。

5.2 観光スポット

斜里町には多くの観光スポットがある。今回は知床八景の一部を紹介する。

5.2.1 オロンコ岩

その昔、このあたりに住んでいた先住民族「オロコ族」から、この名がついたといわれている。ウトロ港近くにある、高さが 60m もある巨岩。170 段あまりの急な石段を上っていくと頂上は平らで、岩礁が透けて見えるほど青く澄んだオホーツク海やウトロの町並み、知床連山などが広く見わたせる。

図 5.オロンコ岩



出典 斜里町 HP

5.2.2 フレベの滝

この滝には川がなく知床連山に降った雪と雨が地下に浸透し、垂直に切り立った約 100m の断崖の割れ目から流れ落ちている。ホロホロと流れ落ちるさまが涙に似ていることから、地元では「乙女の涙」という愛称で親しまれている。知床自然センターから遊歩道を歩いて片道 20 分程で、積雪期は、歩くスキーやスノーシューなどでトレッキングができる。近年すぐ近くにある滝が「男の涙」として紹介されている。

図 6.フレベの滝



出典 斜里町 HP

5.3 斜里の祭り

友好都市青森県弘前市との文化交流の中から始まった知床最大級の祭り。7 月下旬、大小 15 基余りの扇ねぶたが町内の目抜き通り約 2.5km を練り歩き、地上 8m のねぶたも登場する。

今から 195 年前の 1807 年、江戸幕府は北辺警備の必要性から津軽藩に斜里地方の警備を命令した。100 余名の津軽藩士が 7~8 月頃斜里に到着したが、11 月中旬から寒さと栄養不足により病人が続出し、ひと冬で 72 名の藩士が死亡するという事件があった。このような

史実に基づき、1973年に津軽藩士殉難慰霊碑を建立して以来、毎年町民の手で慰霊祭を行っていたことが縁で、1983年青森県弘前市と「友好都市の盟約」を結んだ。

この盟約を記念して、同年7月に「弘前ねぷた」が斜里町に伝授され、町民が一体となって2基の扇ねぷたを運行したのが始まりとなり、以来年々規模を増し大小15基あまりのねぷたが運行されている。

ねぷたは2日間開催されるが、金・土曜日の日中には商店街を中心に「しれとこ夏まつり」も開催される。斜里のねぷたのお囃子が一同に集まる「ねぷた囃子フェスティバル」も開催されるのである。

これらのように斜里には美しい景色、楽しい祭りなどがあり、観光にはもってこいの町である。

図7.しれとこ斜里ねぷた



出典 斜里町 HP

参考HP

○斜里町役場ホームページ

<http://www.town.shari.hokkaido.jp/>

○斜里川を考える会ホームページ

<http://www10.ocn.ne.jp/~shari88/top.html>

○みどり工房斜里

http://www16.plala.or.jp/midori_s/sub3/sub3.htm

○市町村の姿 グラフと統計で見る農林水産業

<http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map/map1.html>